

会派代表質問

平成29年11月定例会議



質問者 佐藤健司議員

代表質問項目

- ① 平成30年度予算編成の方針について
- ② 犯罪被害者やその家族の支援について
- ③ (仮称)森林環境税と本県の木材利用について
- ④ 「レイカディア滋賀 高齢者福祉プラン」について
- ⑤ 小児保健医療センターについて
- ⑥ 県内企業における人材の確保・育成について
- ⑦ 台風21号による農業被害について
- ⑧ 未来を見据えた道路整備の推進について
- ⑨ 学校をめぐる諸課題として、働き方改革といじめ、不登校対策について
- ⑩ 体感治安の向上について



写真提供：(公社)びわこビジターズビューロー

代表質問から

Q 県民の安全、安心を確保する施策、事業への
新年度予算編成における知事の考えは。

A 災害が少ないと言われる本県も、ここ数年、台風被害が多く発生しており、大規模な地震災害の発生等も想定すると、県民の皆さんの安全・安心に直接関わる社会資本の災害リスクに備えた対応の重要性を改めて強く感じている。

市町の皆様からも、治水対策に関わるご要望を多数いただいている。河川整備計画に基づき早期に治水効果が発現できるよう事業に努めるとともに、要望の多い治水上支障となる樹木伐採など実施する。また、地震災害に備え、道路施設の耐震化などハード・ソフト両面の充実強化を図る。当初予算では、引き続き県民の安全・安心の一層の向上を図っていきたい。

台風21号被害



新川決壊



山腹崩壊



ビニールハウス全壊



ため池堤体決壊

二元代表制のもと、
県民代表の議会議員として、
県民福祉の向上と県政発展のため、
活発な議論を通して
滋賀県らしい自治の創造に努めます。



新学習船、二代目「うみのこ」

いよいよ就航!



▲平成29年12月28日に行われた新「うみのこ」の進水式



新船完成パース▶

昨年12月28日に、二代目の新「うみのこ」の進水式が行われ、本年5月の就航に向け、これから内装工事が進められます。

新船は、現船より1階高い5階建てで、ディーゼルエンジンで発電し、その電力でモーターを駆動する電気推進船です。現船に比べてCO₂の排出が削減されるとともに、騒音や振動も抑えられ、デジタル顕微鏡でのプランクトンの観察などを行う実験室が新たに設けられました。また、船内には無線LANを整備し、タブレット端末や電子黒板を使った学習が可能となります。

教育委員会では、子どもたちにとって今まで以上に夢のある船になるように、出港に向けて準備を進めています。

びわ湖フローティングスクールとは

◎取組の概要

滋賀県では、学校教育の一環として、県内小学5年生を対象に、琵琶湖を舞台にして、学習船「うみのこ」を使った宿泊体験型の教育「びわ湖フローティングスクール」を展開しています。現船は昭和58年(1983年)に就航し、これまで(2017年)約53万人の児童が乗船しています。

◎特徴的な取組

1. 「うみのこ」体験学習

①びわ湖学習(びわ湖や郷土を教材とした体験学習および交流学习)
びわ湖の魚の採捕体験、展望活動、寄港地活動、プランクトンの観察、びわ湖の水の透視度調べ、湖底の観察、水草の観察、カッター活動などを行っています。

②船内生活(学習の基盤となる大集団の共同生活)

開校式、避難訓練、「うみのこ」の掃除など、船内で集団生活します。

2. 新船の建造

現在の「うみのこ」が就航から34年が経過し、老朽化してきたことから、平成30年の就航に向け、新船を建造しています。

- ・建造費は約30億円
- ・船名は公募し、選考会を経て、決定。愛着のある「うみのこ」の名称を継承。
- ・実験室、防災倉庫を新設。ICT機器を導入。



▲船首(バルバスバウ)



▲推進器(Zペラ)

新船の建造について

1. 新船のスケジュール

新船建造	
H29年5月	組立開始、船名の公募(8月「うみのこ」に決定)
H29年12月	進水式
H30年1月	艀装工事
H30年2月	
H30年3月	湖上運転、竣工・引渡
H30年4月	就航式、習熟運転、教員向け研修航海
H30年5月	出港式、児童学習航海開始

2. 新船の概要(現在と同じ船名で決定)

< 主要目 >

長さ(全長)	64.93m	長さ(垂線間)	60.00m
幅(型)	12.00m	深さ(型上甲板)	3.30m
計画満載喫水(型)	1.50m	国内総トン数	約1,210トン
推進器	全旋回式縦軸型 280kw×2基		
パウスラスト	ポンプジェット式 257kw×2基		
航海速力	計画満載状態 9ノット以上		
最大搭載人員	24時間以上	223名(うち児童180名)	
	24時間未満	373名(うち児童330名)	
資格、航行区域	JG第2種船 平水(湖川)		

3. 新船の特徴

(1) 電気推進システムの採用

ディーゼル発電機で発電し、その電力で動くモーターの力で推進器(プロペラ)が回転するという仕組みです。これにより、速度制御が容易になり操船性が向上するほか、現船に比べてCO₂などの排出量を削減できるとともに船の騒音や振動の低減につながります。

(2) 科学的にびわ湖を学ぶ体験

水中カメラやデジタル顕微鏡、デジタル水質測定器を使い、観察や調査を実験室を中心に行います。

(3) ICT活用による学習の充実

船内無線LANが構築されており、タブレットPCや電子黒板を有効に活用することで、情報データや撮影した映像を使った学習の交流や振り返り、まとめの学習までを活性化し、探求的な学習につなげます。